

研 究 紀 要

家 庭 部 会

実 践 発 表

将来の就きたい仕事と結びつけ見方・考え方を働かせる授業実践
～地域の認定こども園と連携した専門科目の活性化～

青森県立七戸高等学校 教諭 佐々木 千 春……1

家庭科における見方・考え方を働かせた授業実践
～ライフステージを学習軸とした年間学習指導計画の立案をとおして～

青森県立八戸北高等学校 教諭 豊 川 千 春……3

講 評 1

柴田学園大学附属柴田学園高等学校 校長 荒 城 英 子……5

Z K K研究発表

家庭と地域をつなぐ家庭科の学び ～小中高の系統性を意識した授業づくり～

八戸市立吹上小学校 教諭 熊 野 淑

東北町立東北中学校 教諭 工 藤 真紀子

七戸町立七戸中学校 教諭 㐂 真由美

青森県立三本木農業恵拓高等学校 教諭 附 田 紀 子……6

分 科 会

1 家庭クラブ活動『青高自炊塾』を授業にいかして

青森県立青森高等学校 教諭 竹 田 弘 子……7

2 家庭科の授業を楽しく～すぐできる！I C T活用授業の実践～

五所川原市立五所川原小学校 教諭 前 多 昌 顕……8

講 評 2

青森県総合学校教育センター 指導主事 小 野 育 恵……9

部会の動き …………… 1 1

研究テーマ …………… 1 3

紀要編集委員 清水端 由 香（青森県立百石高等学校）

(4) 中学生体験入学での体験補助

人文科学系列の体験を希望する生徒に対し、折り紙体験のサポートをする。今年度は、「たちやっこ」「せみ」を実施した。中学生に教えることで、就きたい仕事への考え方を深めるきっかけとなる。

(5) 手作りおもちゃ作製（知育玩具）

材料の安全性を確認しながら作れること、発達段階にあった物を作れること、材料代のみで低コストであることなどから知育玩具をメインに製作している。知育玩具のメリットは、「楽しみながら学べる」ことである。遊ぶことで子どもの発想力や想像力などの知能を伸ばしたり、様々な能力を身に付けるきっかけとなる。また、学力だけでなくIQ（知能指数）を高め情緒が安定したり感情を上手くコントロールできたりするなど、人間性も育む効果があると言われている。自分が製作した手作りおもちゃで幼児と一緒に遊ぶことで、豊かな心を育み様々な能力が身に付くきっかけになることを期待して製作している。



(6) こども園実習

近隣にある「城南こども園」にて、「こども園実習」を行っている。園児とのかかわり方や園児の安全の確保、知育玩具の製作や掲示物作成など、実習を通して保育士・幼稚園教諭の仕事について学び仕事への「見方・考え方」を深める。また、卒業後保育系の短期大学や専門学校へ進学し、近隣のこども園へ就職している卒業生もいる。



(7) 手作りおもちゃ寄贈

授業内で製作した手作りおもちゃを「こども園実習」で園児と一緒に体験したおもちゃを一度学校へ持ち帰り、PDCAサイクルで改善したものを寄贈している。先輩方のアイデアやYouTubeなどから得た教材も、「TTPS」すなわち「徹底的にパクって進化する」ことで、「見方・考え方」を軸としながら、幅広い授業改善の工夫が展開されていく。



4 まとめ

本校に赴任して2年目である。前任校は中高一貫校であったため、中学校の「家庭分野1～3年」と高等学校1学年の「家庭基礎」を担当していた。七戸高等学校に赴任してから専門科目を担当するのは約14年ぶり。家庭科技術検定を本格的に担当するのは、約20年ぶりというブランクがあった。恥ずかしながら保育検定は初めてである。また、私自身講師歴が長く、現在までの勤務校をあげると（青森県立と高等学校を省略）川内・五所川原農林・深浦町教育委員会（臨時事務）・五所川原・南郷・三本木農業・深浦・八戸中央・大湊・むつ工業・田名部（大畑校舎兼務）・三本木（附属中学校兼務）・七戸である。引っ越しや別れが辛かったが、出会いも多く同業の知り合いも多い。特に五所川原農林・旧三本木農業在職中は、諸先輩方や同僚から学べる貴重な経験が現在でも財産となっている。「見方・考え方」は教科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方であり、学校教育だけではなく大人になって生活していく上でも重要な働きをするものとなる。「保育基礎」「保育実践」の授業を通して「こども園実習」を行うことが保育や子育て支援に関する課題を発見し、子どもを取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として、合理的に解決する力を養える事に繋がっている。また、地域の認定こども園と連携を図り、単に子どもと触れ合うだけでなく、綿密な計画に基づき保育者の視点をもった実習を行うことで、専門科目の活性化に繋がっている。

保育士の仕事というと、保育園で働くイメージが強いと思う。しかし、近年、児童虐待問題や共働きの増加、子どもへの教育の多様化にともない、保育園以外にも保育士資格を活かせる仕事や職場が増えてきている。教科指導や進路指導でも生徒に紹介しているが、保育士の免許取得者は様々な職業選択の可能性がある。

1. 保育園・保育所 2. 幼稚園 3. こども園 4. 病児保育室 5. 院内保育所 6. 企業内保育所
7. 託児所 8. 児童福祉施設 9. 学童保育・児童館 10. 介護施設 11. 保育ママ 12. ベビーシッター
13. プリスクール 14. ベビーホテル 15. 幼児教室 16. ピアノ講師 17. 保育人材会社
18. 保育園運営会社等である。将来就きたい仕事へ結びつける「見方・考え方」を働かせるために「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」等の視点で生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むためにどのような工夫が必要かなどを具体的に示した授業を心がけ、これからも地域の認定こども園と連携し、専門科目の活性化に繋がられるよう精進し続けたい。

「家庭科における見方・考え方を働かせた授業実践」

～ライフステージを学習軸とした年間学習指導計画の立案をとおして～

青森県立八戸北高等学校 教諭 豊川 千春

1 はじめに

本校は全日制普通科の単位制高校で、令和6年度入学生より1年次5クラスとなった。2年次より文型・理型コースを選択し、卒業後は生徒の9割以上が四年制大学に進学する。校訓が無いのが最大の特徴で、校歌の最終節である「北はきびしく きよきもの」が本校の精神的支柱となっている。1年次で家庭基礎2単位を履修、3年次で進路希望に応じて学校設定科目「生活総合」2単位を選択履修できる。

2 テーマ設定の理由

本校の生徒は、物事や学習内容を単独・単発で捉える傾向があり、自分の生活と社会の出来事、現在の自分と未来の自分をつなげて考えることがあまり得意ではない。そこで、家庭科の学習で学んだことを生徒が自分事として捉え、これからの生活や人生においてどのように活用していくかを少しでも実感できるような方法はないかと考えて、ライフステージを学習軸として年間学習指導計画を立案し、15歳から高齢期までをバーチャルの人生としてたどっていく形式で授業を展開することにした。

3 実践内容

4月最初のオリエンテーション後、「15歳の私」から授業がスタートし、次の授業は16歳、その次の授業は17歳・・・というように、1時間に1歳ずつ年齢を重ねる設定で授業を展開している。授業内容によっては2時間で1歳進むこともあり、概ね1年間で62～63歳までバーチャル人生が進んでいく。ライフステージを軸とした年間計画なので、授業は教科書のページ順ではなく、例えば本時は衣生活分野、次時は食生活分野、というように学習のねらいに応じて進めている。なお、以下の(1)～(5)は実践内容を説明する上で設定した区切りであり、実際の授業では年齢での区切りやまともりは設けていない。

(1) 青年期：15～17歳

アイデンティティの確立や自立の準備、目標設定や意志決定およびその実現に必要な生活資源の活用に焦点をあてて授業を展開している。今年度は生涯の生活設計についての学習にマンダラチャートを活用した。生徒からは「高校卒業後の目標だけでなく、今取り組むべき課題が明確になった」「自分一人で頑張らなければと考えていたが、いろんな人のサポートを受けた方がいいと気づいた」「学力だけでなく、体力・精神力・人間力も身につけなければならないとわかった」などの感想が聞かれ、将来に向けて学校生活や社会生活に主体的に取り組もうとする姿勢がうかがえた。

(2) 青年期：18～21歳

本校生徒は卒業後9割以上が進学するため、学生の一人暮らしという設定で展開している。18歳成年に伴って可能になる賃貸借契約（物件選び）や借金（奨学金）、仕送りをもとにした家計管理①、栄養面と経済面の両面から考える食事計画、就職活動における衣服選びなどを取り上げている。家計管理①では、万単位の金額に対する感覚をつかめるようにというねらいがあり、時間と金銭の関係などについても考えさせるようにしている。また、自炊する力が身につけば食費を節約できるというように、知識や技能の習得によって経済的負担を減らす可能性が高まることを実感させ、家庭科の学習意義や目的をより意識させるように工夫している。

(3) 青年～壮年期：22～29歳

社会人の一人暮らしと自立の完了という設定で、消費生活分野を中心に家計管理②、家計と社会の関わり、消費行動における契約の重要性、資産運用、消費者保護などを取り上げている。家計管理①が仕送りをもとにした自身の生活維持のシミュレーションを目的としているのに対して、家計管理②は自分の収入をもとに自分の生活のみならず、社会の一員として非消費支出の意義や将来の人生設計およびリスクに備えた支出について考えるなど、この後迎える長い壮年期に向けた長期的経済計画の重要性を理解することをねらいとしている。

例えば、月々貯蓄にまわした金額が順調に貯まったとすれば、数年後にはいくらになるか計算させた上で、

同じ金額を運用にまわした場合はどうなるのか比較させて、資産形成の様々な方法に対するイメージや理解を促している。

(4) 壮年期：30～39 歳

自立から共生へと移行する時期として、家庭を持ったり家族が増えたりする設定にしている。この期間は保育分野を中心に上げ、ペアになった生徒同士で一定期間模擬夫婦になってもらい、共同生活の課題や解決法を話し合いながら子育てにあたってもらふ。授業ではさまざまなペアができることから、呼称は「夫・妻」に限定せず「パートナー」と表現している。家庭を持つと、家族のために時間をつかったり調整したりしなければならないので、物事に優先順位をつけて時間管理をしたり、子どもがいる生活をイメージしたりするために、授業外の活動として1クラス2～3日間の保育園送迎模擬体験を行っている。生徒と一緒にバーチャルの子どもも年齢を重ねていくので、乳幼児期の特徴や生活について学びながら、養育者として経験を重ねていくような感覚を持たせられる効果があった。

(5) 壮年～高齢期：40～60 歳代

家庭の中に複数のライフステージが混在し、ライフスタイルが多様化しやすい時期であると同時に、社会や未来への貢献が求められる時期でもあるので、仕事と家事・育児・介護との両立などワーク・ライフ・バランスの実現、家族の衣食住における健康・安全、地域社会との共生や次世代への文化継承、持続可能な社会の実現に向けた具体的行動、高齢期の特徴や生活、社会福祉・社会保障などについて取り上げている。例えば、40代の自分と小学生の子どもの組み合わせの時期に、学習のキーワードとして「ライフステージと住み替え」

「防災・防犯」を取り上げると、長期的な視点で「空き家問題」や「地域とのつながり」といった社会的課題に結びつけることができる。同様に、「食習慣や食に対する意識の変化」や「生活習慣病」といったキーワードは、「食文化の継承」「社会保障費の増大」のような課題と、「界面活性剤」や「生分解性」は、「エシカル消費」という課題と関連させて授業を展開している。さらに、高齢期の学習については、生徒より生徒の親世代が先に高齢期に突入することをイメージさせるために、バーチャル年齢が50代後半のあたりで介護に関する学習内容を取り上げている。バーチャル介護生活を体験することで、いざ自分自身が60代や高齢期を迎えるにあたり、いつからどんな備えを始めておいたらよいのかを、具体的にイメージさせることができた。

4 まとめ

バーチャル人生をとおして時間の連続性や不可逆性を体感させることにより、自分の選択や決断に責任を持つことの重要性や、知識や技能を習得し実生活に活用することの意義を伝えやすくなったと感じる。

生徒に実施した授業アンケートの自由記述回答の一部を紹介すると、「1時間ごとに1歳年をとるシステムが面白い」「教科書の順番ではなく年齢順に進んでいく授業が、とても実感が湧いて楽しい」など、バーチャル人生による授業展開に意外性や面白さを感じている様子が見え、家庭科の学習に興味関心を持ってもらえる効果があったのではないかと考えている。また、「体験型の授業はわかりやすく楽しい」「自分で将来のことを考えて計画を立てる授業が面白い」「自分で考えることが多く、身につくことがたくさんあって良い」など、人生や生活における課題を自分事として捉える前向きな反応が見られた。さらに「ペア学習が楽しい」「自分では考えつかなかった意見やアイデアを知ることができたり、具体例を挙げてシミュレーションしたりすることでイメージが付きやすかったので楽しかった」のように、ペア学習やグループ学習を通して、他者と協働して生活することの意義や課題について考えたり、実際のコミュニケーションを通して自分と他者の意見のすり合わせ方を考えたりすることで、生徒の視野を広げる効果もあったとみられる。このほかにも、授業でのバーチャル年齢が家族や身近な人の実年齢と同じになったときに、その年齢や世代が抱える生活課題に具体的に触れることで、苦労や気持ちを想像し理解しようとする反応が見られた。

授業者としては、ライフスタイルや価値観の多様性に最大限の配慮をしながら授業展開をし、実際の人生設計の誘導につながらないように留意している。あくまでもバーチャル人生は仮想体験であり、実際の生活や人生において授業と同じような場面ばかりとは限らないし、想定外のことも起こりうる。授業の場面設定とは逆の「～ではない方の人生」の可能性や、それらを含めた多様な選択を尊重することの重要性もしっかりと伝えなければならない。また、選べなかった選択肢や選ばざるを得なかった選択肢があるなど、人生の全ての場面において自分の意思を反映させられるわけではない。だからこそ、自分の意思や判断が自由に反映させられる場面においては、主体的に自分の人生と向き合えるようになってほしい。家庭科の学習をとおして、生徒が主体的に自分の人生と向き合い、より良い生活を営む力を身につけられるよう、今後も指導に励んでいきたい。

皆さん、こんにちは。

あまり長くはお話ししないが、私は家庭科の教員を退職してから、もう 13 年になる。長い月日が経っているが、今日は Z K K の発表から拝聴し、実践発表のお二方の発表も感慨深く聞いた。講評ではなく感想としてお話しさせて頂きたい。

まず、家庭科の教員がこんなにも少なくなったのだと実感している。私が勤めていた頃（13 年前）は、160 人くらいの先生方がいて家庭科は一大勢力であった。それぞれの勤務校で、「家庭科の女たちがうるさく言って俺たちはなかなか仕事がやりにくい」といわれたくらいであったが、随分スリムになったというのが実感である。

私たちの頃は、家庭総合 4 単位が確保され 1・2 年で分割履修をしていた。今は、単年度で家庭基礎 2 単位を履修するというのが通常だと思う。その中で、今回の発表を見せて頂いてすごいと思ったのは、お二方とも学校の実情や生徒の実態に応じて、地域の状況を踏まえた指導をしているということ。これはすごく素晴らしい。我々の時代と違って精鋭なのだと思う。

まず、七戸高校の佐々木先生の発表では、学校のすぐ近くに生徒たちが体験できる施設があり、年 6～7 回訪問できるとのこと。素晴らしい環境だと思う。私たちは、学校で生徒を指導する際、安全・安心を担保しなければならず、そこまで行くのに何かあったらどうしようと考えなければならないが、450m・徒歩 6 分ほどの距離で実習場所に行けるのは、本当に恵まれた条件だと思う。また、科目履修については、1 年次は共通科目、2・3 年次には系列に分かれて学習しているとのことだが、カリキュラムをみると家庭科はすごく優遇されていると思う。私は南部の生まれだが、七戸高校という昔から歴史があり、実践教育も素晴らしい学校だと感じていた。その中で、先生が実際に授業で取り組んでいる様々なこと、例えば、生徒たちに考えさせて知育玩具を作り、実際にそれを持ってこども園実習で活用するなど、実際に実践していることが素晴らしい。さらに、ヨーグルトを食べた燃えるゴミ・燃えないゴミに分別するだけではなく、それをゴミとはせずに何かに使うということを考えさせ、実際にひとつの玩具を作り上げているということも素晴らしい実践である。また、生徒の将来に向けて、それぞれの保育系の学校に進学させるという目標をもって指導しているという点も、本当に素晴らしいと思った。佐々木先生、これからも生徒たちと一緒に大きな声で歌いながら検定の指導、頑張ってください。

次に、八戸北高校の豊川先生。私が実際に授業したのは、生徒たちにライフステージを書かせて将来の計画をたてさせてみる。生まれて、結婚して離婚して、そして施設に入る…というように、ライフステージを計画させたことはあるが、先生の授業では、それを使ってさらに空間を膨らませ、実際に起こり得る様々な課題を出していく。1 時間ごとにそれぞれの課題があつて、例えば、あなたたちは、高校を卒業したら自立して大学に進学する。いろいろなアパートの物件の中からどれを選ぶのか、資料を準備し生徒たちに選ばせる。次に、10 万円という仕送りの設定。（今は親の仕送りが 10 万円くらいで普通なのか、私たちの年代では、一人当たり 15 万円は送っていたような気はするけれど。）授業では 10 万円というシビアな設定のなかで、前の時間にあなたが選んだ物件の家賃を引くとどれくらい残るのか、そこから毎日の食費はどうするのか、交通費やアパートの共益費もあるかもしれない。そういうところで考えさせるということがすごくいいと思う。但し、あれは先生がしっかりと教材研究をして一生懸命やっているからできることだと思う。毎時間の教材研究、本当にご苦労様です。それが、1 年間の授業の中で青年期、壮年期、老年期、老老介護まで続き、1 時間に 1 歳ずつ年齢を重ねて、1 年間で 62～63 年分（今は人生 100 年ですから）の自分のライフステージを作っていく。それを、どのように作り上げていくかを子どもたちに実際に考えさせながら展開していく。そしてまた、今このような災害が頻発している状態では、実際に想定外のこともたくさんある。例えば、新しい家を建てたけれど、床上浸水してしまい家に住めなくなってしまった。また家を建てなければならないがどうするのか。また家を建てるのか、それとも公益のアパートに住むのかなど、そういう設定等も大変面白いと思うので、これからの教材研究も頑張ってみてほしい。よろしくお願ひしたいと思う。

お二方の先生方、本当にこの発表の準備は、大変だったと思う。私も校長協会で、今年研究発表したのだが、とても大変であった。嫌だったし、できれば逃げたいとも思ったが、そういう意味で、お二人の先生方には敬意を表したいと思う。本当にご苦労様でした。

それから、一言だけ付け加えさせてほしい。私は、今、校長職に就いているが、他のところでカウンセラーもしている。その中で、自分が元家庭科教員だということもあり、少し取り組んでいることがある。

面談する時に話すのは、今この学校で困り感はあるのか、あなたの家庭はどんな家庭なのか、個人情報だから言いたくないことは言わなくていいよと、言えることだけ言ってもらう。それから高校生活はどうだったのか、将来どうしたいと思っているのか、今困り感はあるのか、学校以外ではどうなのかなどを聞いていく。その中で、家庭生活のところで必ず聞くことがある。それは、「お母さん（又は、おばあちゃん、お父さん）の得意料理は何か」ということ。そうすると、今の子どもたちは何と答えるか。それでも、私が現職の頃は、お母さんの得意料理は、鍋料理だとか、すいとんが得意、せんべい汁が得意だという回答が返ってきたが、今、返ってくるお母さんの得意料理は、カレーライス、シチュー、スパゲッティ…などという回答である。先ほどの豊川先生の発表ではないが、自分で知識・技能があれば自炊することができる。そうすれば、どうにか工夫をして郷土料理のようなものが作れる、ということにつながるのではないのかなと思う。

先生方のご研鑽をお祈りしております。どうぞ、先生方も頑張ってください。

以上、簡単ですが、私の感想とさせていただきます。

ZKK研究発表

家庭と地域をつなぐ家庭科の学び

～小中高の系統性を意識した授業づくり～

八戸市立吹上小学校	教諭 熊 野 淑
東北町立東北中学校	教諭 工 藤 真紀子
七戸町立七戸中学校	教諭 呷 真由美
青森県立三本木農業恵拓高等学校	教諭 附 田 紀 子

全国家庭科教育協会（略称ZKK）第74回研究大会（令和6年8月6～7日開催）の研究発表、主題「他者との協力・協働・共生を目指す家庭科」、〈小・中・高等学校関連〉での発表されたものを、ZKKの了承を得て本大会でも発表していただいた。

ZKK研究発表大会での研究発表要旨をまとめた「研究集録」は、参加者のみの配布となっているため、詳細を知りたい方や資料を希望される方は、青森県総合学校教育センター産業教育課指導主事小野育恵までお問合せ下さい。



「家庭クラブ活動『青高自炊塾』を授業にいかして」

青森県立青森高等学校 教諭 竹田 弘子

北海道洞爺高校の赴任から始まり、大間、深浦、鯨ヶ沢、五所川原農林高校、そして青森高校で定年を迎え、現在も同校で勤務して8年が経過し、教員生活が40年になる。それぞれの高校で、家庭科教員として何を生徒に伝えるべきかを考えながら、授業を模索しながら作ってきた。

青森高校の生徒にとって、大切なことは何か。私が導いた結論は、どんな場所で、生活してもご飯が食べていける生活力を身につけること。今は、自宅へ帰ると親が作ってくれた温かいご飯が準備されている。しかし、大学生になれば、ほとんどの生徒は一人暮らしが始まり、いきなり自立を迫られる。それを難なく乗り越え、思い描くキャンパスライフを謳歌するためにも料理を作る力が必要だ。そのようなことを考え、手探り状態で授業づくりをしている折、弘前大学で「自炊塾」という大学生を対象にした講座を開講することを知った。これは、参加するしかないと申し込んだことがきっかけで「青高自炊塾」が始まったのである。

昨年、自炊塾の講師であった九州大学の比良松先生（現在は新潟食料農業大学教授）に本校の取り組みを報告したところ、「今後、青高自炊塾を巣立った生徒たちが、全国各地で自炊塾伝道師となってくれることでしょう。そんな若者の活躍をどこからともなく伝え聞かされる日を私も楽しみにしています。」との励ましの暖かい言葉を頂いた。

「青高自炊塾」では、生徒に料理に興味を持ってもらうこと。そのために、料理は面倒という心理的なハードルを下げるような実習をたくさん実施する。具体的には、材料をたくさん使用する料理や複雑な調理操作がある料理は、実習に取り入れないようにした。実習では、使い切ることができない食材が出てくるが、これを続けて複数回で使い切る実習を組み立てた。（一例として、きなこ飴を作り、次はわらび餅、豆腐白玉と3パターンの実習で、きなこ黒蜜を使い切るような実習の組み立て。）これは、一人暮らしで食材を購入したら、同じモノを使い続けて余らせずに使い切る工夫をするんだよというメッセージが含んでいる。また、長期の休みには、ホームプロジェクトとして、テーマを設定し、「家庭で料理を作り家族に食べてもらう」という課題を年3回実施している。それをレポートにまとめることで、振り返りの機会も設けた。また、将来授業で覚えた料理を作ってもらいたいという思いから「青高自炊塾レシピブック」を製作し、いつでも料理を手軽に作れるような工夫もしている。

今回の演習では、冷やし豆乳担々麺とマフィン生地で作るマフィンとドーナッツである。洗い物を減らすために材料の混ぜ合わせは、ビニール袋やフライパンの中で行った。マフィンの型は、本校で大量にストックしている雑紙を使いエコも意識させている。わざわざお金を出して、マフィン型を購入することなく、工夫すれば何でも作れることを体験してもらうためだ。今回は、同じ生地で作る2つのお菓子を作ることができる工夫もした。冷やし豆乳担々麺も1時間で調理、試食、後片付けが終われるようにしている。フライパンに直接材料、調味料を入れ混ぜて合わせてから、火をつけるコールドスタートという調理法を説明した後で、そばろを作った。またきゅうりの千切りは、包丁を使わずにしりしり用のスライサーで行った。今回は、夏の暑い時は麺を茹でずに、流水麺を使って時間短縮にも努めた。

【受講した先生方の感想】

とても楽しく、また短時間で手軽にできる調理で、自分でも取り入れてみたい内容でした。特に進学校の生徒などは、青森県から出て県外で1人暮らしする生徒も多く、高校のうちから自炊を意識させる必要があると感じており、その際に先生の作られている自炊ファイルは本当に生徒たちに役に立つと感じています。（一部抜粋）スライサーを使用する際のきゅうりの処理や、材料を混ぜる際の袋のサイズなど生徒の混乱がないような工夫や、実習をやりっぱなしにしない工夫を学ぶことができた。

また作りたい、自分でもできるという経験学習が組み込まれていて、すぐに実施しようと思います。



講義



生地作りは、ポリ袋の中で



ドーナッツとマフィン



そばろは、フライパンでかき混ぜ



冷やし担々麺



試食

「家庭科の授業を楽しく～すぐできる！ICT活用授業の実践～」

1 はじめに

2019年12月に文部科学省が表明したGIGAスクール構想は、2022年4月末で利用を開始できる状態になっている学校が97.9%となり、1人1台端末の整備と校内ネットワークの整備はほぼ完了している。そして、小学校からICTを活用した授業を受けてきた生徒が高校に入学してくるようになった。

学習指導要領で、急激な時代の変化に対応できる人材育成の必要性が明確に訴えられており、ICT活用ということについては、情報活用能力が言語能力と並んで学習の基盤となる必要不可欠な能力として規定された。また、主体的・対話的で深い学びを実現するためには、ICTを活用した学習活動を充実させることで工夫するよう求めており、道具としてICT活用への言及がある。個別最適な学びの支援が期待されるとともに、児童生徒が必要な情報を効率良く収集し、活用できるようになることは、これから必要となる重要なスキルである。デジタルが嫌いという教師にあたってしまった児童生徒は、これから先、苦勞することになる。教師が教育活動の中で少しでも使っていくことが重要である。「昭和の授業を令和の技術で」とよく言われるが、洗練され世界的に見ても優れている昭和の授業に令和のテクノロジーを取り入れ、まずは時短する。そして、例えば、これまで一人ひとりの付箋を並べるのに10分かけていたものを3分にして、7分を児童生徒の話し合いの時間などに充てることでより深い学びにすることができる。この講義・演習を通してデジタルでもアナログでもできることはまずデジタルでと思ってもらい、実行するきっかけとなってくれることを願っている。

五所川原市立五所川原小学校 教諭 前多 昌顕 氏



2 講演・演習の内容 Canva を中心に ※有料の Canva プロが教育版にすると無料。やり方は MIEE MAETA のお手軽 ICT 活用

普段 やってること

例えばこんなこと

AI に作っても
らった画像

フェイクニュースに
ついての授
業紹介

今回やること

- 夏休みの絵日記
- 模擬授業っぽいこと
- 質疑応答

農林水産省 うちの郷土料理

児童生徒になった
つもりで情報収集

絵日記作り

皆でホワイトボードに付箋

AI で瞬時に分類

付箋を要約した文章を AI にお願い

超絶簡単動画にしてほしい！ 質問を投稿など。と教えてください

パターン1
子供たちは青森県の郷土料理「けの汁」について学び、たくさんの野菜が入っていて健康的であることを理解しました。材料を細かく切るは大変そうだが、無駄なく食材を使う点が環境に優しいと感じました。また、各家庭ごとに味が異なるため、色々なバリエーションを試してみたいと興味を持ちました。多くの子供たちは、自宅でも作ってみたいと考え、けの汁の栄養バランスの良さにも感心していました。

パターン2
「けの汁」は青森県の郷土料理で、家庭ごとに味や切り方が異なり、多くの野菜を使うことで健康的で栄養バランスの良い一品であることがわかりました。

付箋から作詞を AI
にお願い・Suno で作曲。
歌が完成。試聴。

※文部科学省が 2023/7/4 公表した生成 AI 利用の学校ガイドラインでは、年齢制限などサービスごとに設けられた利用規約を順守するよう求めている。
Chat GPT を提供する米オープン AI 社では、18 歳未満の場合は保護者の同意を必要としている。

受講者からの質問

〇AI に作ってもらった画像や歌に著作権はありますか？⇒「無いです。著作権を主張することも出来ません」

回答 ※詳しくは「AI と著作権」文化庁などを参照

3 まとめ ※生成 AI は機械学習を基に新たなデータやコンテンツを生成 Chat GPT は生成 AI の中でもテキストの生成に長けたサービス 生成 AI, Chat GPT は手抜き？

前多先生の回答「AI が作成した文章をそのまま使うのはただの手抜き。」「知らないことを知っているかのようにつくるのが AI であることを理解し、AI は嘘をつくかも、この文章でいいのか、と考えを深めたり比較検討したりすることを導入にして、自分の考えを書くことができるようになることに使う。効率の良い手立ての1つとして使う。」「授業のまとめを楽しく学べるものにするために AI を活用する。例えば、“けの汁の歌”のように。」

先生方、1 日大変お疲れ様でした。私の方からは、講評と情報提供ということでしたが、今日 1 日について振り返り、感想を述べさせていただきます。

まず初めに、8 月 6 日に行われた Z K K 研究大会で発表した【小・中・高等学校の関連】「家庭と地域をつなぐ家庭科の学び～小中高の系統性を意識した授業づくり～」について、小中高등학교 4 名の先生方に発表をして頂きました。小中高の繋がりを意識することの大切さは、昨年度もお話しさせていただきましたが、今回の研究のように 3 つの校種の先生方が顔を合わせて、お互いの授業を見合い、どのように繋がりを持たせていくのか話し合いをしながら授業作りをすることは、現実的には難しいかもしれません。しかし、今回このような研究をすることによって、互いに今まで見えなかったことが見えてきた、もっとこういう風にすればいいのでは、という気付きに繋がったようです。今回の発表をお聞きになって、私も中学校の授業を見てみたいと思って頂ければと思います。

今回のように、「先生たちが繋がることは少し難しい」という方もいらっしゃると思いますので、調査官の言葉をお伝えします。「学習指導要領は、我々高校では高校の内容を、小学校は小学校の内容を、中学校は中学校の内容を授業で取り組むことで、自然に内容が繋がるようにできている。だからこそ、それぞれの校種でやるべきことをやるのが児童・生徒たちの資質・能力の育成に繋がっていく。」ということをおっしゃっていました。まずは学習指導要領の内容をしっかりと確認する。あるいは、我々は高校を担当していますので、中学校の学習指導要領の内容を確認し、繋がりを意識した授業をこれから考えて頂ければと思います。

続いて、午前中の「家庭科における見方・考え方を働かせた授業実践」では、お二人の先生方に発表をして頂きました。豊川先生も佐々木先生も、とてもパワフルで、勉強熱心なところが伝わる素敵な授業実践であったと感じました。説明を聞きながら、私自身がちょっとワクワクして、生徒として授業を受けたらすごく楽しそうだと感じました。それぞれ、将来就きたい仕事に結びつくように、家庭科の学びを自分事として今後の自分の生活に結びつけて生かしていけるようにという想いがとても感じられる授業実践でした。生徒たちに様々な体験をさせながら、自分事として実感を伴った学びに繋がるよう、とても工夫されていたと思います。

学校の環境であったり、生徒の様子であったり、様々ありますので、全てをすぐに取り入れることは難しいですが、先生方がこれから自分で生かせる様々なポイントが含まれていたと思います。ぜひ今後の授業に生かしていただければと思います。

次に午後の分科会です。青森高等学校 竹田先生の「家庭クラブ活動『青高自炊塾』を授業にいかして」、五所川原小学校 前多先生の「家庭科の授業を楽しく！～すぐできる！ICT活用授業の実践～」をそれぞれ少しずつ見させて頂きました。竹田先生の授業実践は、生徒の目線に合わせた、わかりやすい楽しい説明で、生徒として授業を受けたら楽しそうだなと感じました。また、物を無駄にしない工夫としてクリアファイルに挟まってしまうような紙で型を作って、それを実習に活用されていました。これが作れるようになると、調理実習だけに留まらず、災害が起きた時はこれにビニールを被せればコップにもなる等、様々発展させた授業となっており素晴らしいです。生徒はこのような知識をさらに発展・工夫した内容からたくさんを身に付けていくのだと感じました。

続きまして、前多先生の授業は途中から見させて頂きました。ICT ということで、途中からでは私には難しかったなと思いました。その中で、子供たちが 1 人 1 台端末を持つようになりいい環境が整ってる中で、今までアナログでやっていたもの、時間がかかっていたものでもデジタルを活用することで瞬時に解決でき、その分を生徒たちの思考時間に充てられる、別な活動ができる、という内容であったと思います。先生方の中でも ICT に関しては得意不得意があると思いますが、今回見聞きしたことを先生たちなりに更に勉強して頂き、ぜひこの環境を生かして楽しい授業、生徒たちのためになる授業を目指して、様々工夫して頂きたいと思います。

この研究発表大会で、様々な先生方の実践を聞くことができて、本当に大変勉強になりました。ご準備頂きまして本当にありがとうございました。

今日、皆さんに提案をさせて頂きたいことが 1 つあります。日々の業務で先生方が学校を離れることが難しい現状のため、センターの講座を受講したり、様々研修等に参加することが難しい先生方が多いと感じております。そのような状況のため、調査官から得ることができた情報等を皆さんに伝える機会がなかなか持てずにおりました。いろいろ検討して、学校教育センターで運用しているメーリングリストを活用したいと考えました。先生方のお名前、メールアドレスを学校教育センターで管理させて頂き、登録してある全ての先生方に同じ内容の情報を一斉送信することができます。全国の指導主事会等で見聞きした情報を、年に数回受け取って頂きたいと思っ

ております。まずは今年度実施させて頂きたいと思います。私自身も有益な情報提供をできるよう務めて参りますので、今後ともよろしくお願い致します。

最後になりますが、3年間部会長を務めていただきました志村校長先生、家庭部会のためにご尽力賜りまして、本当にありがとうございました。これからも家庭科教員一同、力を合わせて頑張ってまいりますので、今後も温かい目で見守って頂ければと思っております。そして、今回の研修会を開催するにあたりまして、様々準備をして下さいました事務局の百石高校の先生方、それから担当校の先生方、各発表を引き受けてくださいました先生方、さらにはご参加頂いた先生方に、このような充実した研究、研修の機会を頂けましたことに感謝申し上げます。また来年この場でお会いできることを心より願い、私からの挨拶とさせていただきます。本日は1日お疲れ様でした。

部 会 の 動 き

自 令和 6 年 4 月

至 令和 7 年 3 月

6 月 1 7 日 (月) 県高教研家庭部会第 1 回役員会 於 青森県総合学校教育センター (青森市)

- 1 令和 5 年度高教研家庭部会事業報告
- 2 令和 5 年度高教研家庭部会会計監査報告
- 3 令和 5 年度高教研家庭部会一般会計・特別会計決算報告
- 4 協議事項
 - ・令和 6 年度高教研家庭部会役員改選案
 - ・令和 6 年度高教研家庭部会事業計画案
 - ・令和 6 年度高教研家庭部会一般会計・特別会計予算案
 - ・令和 6 年度高教研家庭部会研究発表大会担当者輪番表案
 - ・令和 6 年度高教研家庭部会研究発表大会発表者輪番表案
 - ・令和 6 年度高教研家庭部会研究発表大会要項案
 - ・県外研修補助費について

5 その他

令和 5 年度会計監査

8 月 2 1 日 (水) 高教研家庭部会総会及び研究発表大会 於 青森県総合社会教育センター (青森市)

1 総会

2 ZKK 研究発表

テーマ 家庭と地域をつなぐ家庭科の学び

～小中高の系統性を意識した授業づくり～

八戸市立吹上小学校	教諭 熊野 淑
東北町立東北中学校	教諭 工藤 真紀子
七戸町立七戸中学校	教諭 呷 真由美
青森県立三本木農業恵拓高等学校	教諭 附田 紀子

3 実践発表

テーマ 将来の就きたい仕事と結びつけ見方・考え方を働かせる授業実践

～地域の認定こども園と連携した専門科目の活性化～

青森県立七戸高等学校	教諭 佐々木 千春
------------	-----------

テーマ 家庭科における見方・考え方を働かせた授業実践

～ライフステージを学習軸とした年間学習指導計画の立案をとおして～

青森県立八戸北高等学校	教諭 豊川 千春
-------------	----------

4 分科会

1 演習 「家庭クラブ活動『青高自炊塾』を授業にいかして」

献立：冷やし担々麺、マフィン生地で作る焼きドーナッツ

青森県立青森高等学校	教諭 竹田 弘子
------------	----------

2 講演・演習 「家庭科の授業を楽しく！～すぐできる！ICT活用授業の実践～」

五所川原市立五所川原小学校	教諭 前多 昌顕
---------------	----------

1 1 月予定	令和 7 年度教育研究大会第 1 回担当者会議
2 月予定	令和 7 年度県高教研家庭部会研究発表大会第 2 回担当者会議 県高教研家庭部会第 2 回役員会
3 月予定	監査

研究発表大会 研究テーマ一覧

紀要 (集)	年度	研 究 テ ー マ	会 場	会員数	大会参加 者数	大会発表 者数
45	12	○新学習指導要領実施に向けた指導の工夫について	八 戸 西 高 校	165	112	3
46	13	○新学習指導要領実施に向けた指導の工夫について	県総合社会教育センター	153	108	3
47	14	○新学習指導要領実施に向けた指導の工夫について	津 軽 伝 承 工 芸 館	160	118	3
48	15	○新教育課程における指導のあり方	古牧温泉渋沢公園	141	109	3
49	16	○新教育課程における指導のあり方	アピオあおもり 県民福祉プラザ	135	102	3
50	17	○新教育課程における指導のあり方	弘前パークホテル	128	107	3
51	18	○家庭科教育における指導と評価のあり方	サン・ロイヤルとわだ	129	92	3
52	19	○家庭科教育における指導と評価のあり方	アピオあおもり	119	94	3
53	20	○家庭科教育を通して生きる力の育成を考える ー家庭クラブ活動の活性化を目指してー	弘前パークホテル	115	93	3
54	21	※総会のみ	県総合社会教育センター	115	57	0
55	22	○家庭科教育を通して生きる力の育成を考える ー実践活動の活性化を目指してー	県総合社会教育センター	116	83	3
56	23	○家庭科教育を通して生きる力の育成を考える ー実践活動の活性化を目指してー	鱒ヶ沢温泉ホテル グランメール山海荘	115	74	3
57	24	○家庭科教育を通して生きる力の育成を考える ー実践活動の活性化を目指してー	サン・ロイヤル とわだ	115	72	3
58	25	※総会のみ	ベストウエスタンホテル シティ弘前	117	64	0
59	26	○新学習指導要領における指導のあり方	ホテルサンルート 五所川原	113	83	2
60	27	○新学習指導要領における指導のあり方	ホテルグランヒルつたや 三沢市	117	88	2
61	28	*総会のみ（東北ブロック家庭クラブ研究発表大会のため）	県総合学校教育センター	118	64	0
62	29	○主体的・対話的で深い学びの実現を目指して	アピオあおもり	113	69	2
63	30	○主体的・対話的で深い学びの実現を目指して	アピオあおもり	107	76	2
64	R1	○主体的・対話的で深い学びの実現を目指して	八戸プラザホテル	102	78	2
65	R2	○主体的・対話的で深い学びの実現を目指して *実践発表：紙上発表	—	107	—	(2)
66	R3	○家庭科における見方・考え方を働かせた授業実践 *実践発表：紙上発表 研修：東北ブロック家庭クラブ研究発表大会	研修：青森中央高校 zoom開催	102		(2)
67	R4	○家庭科における見方・考え方を働かせた授業実践 *実践発表：紙上発表 研修：①全国高等学校長協会家庭部会東北地区連絡協議会講演 ②第32回全国産業教育フェア青森大会	研修①弘前パークホテル 研修②新青森県総合運動公園 マエダアリーナ他	98		(2)
68	R5	家庭科における見方・考え方を働かせた授業実践	県総合社会教育センター	91	67	2
69	R6	家庭科における見方・考え方を働かせた授業実践	県総合社会教育センター	90	63	2

